

令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第2回啓発研修部会
会議録

1 日 時 令和6年1月23日(火) 19:15~20:15

2 場 所 オンライン会議

3 出席者 吉永部会長、近藤委員、瀧委員、坪井委員、平野委員

4 傍聴者 0人

5 次 第 (1) 開 会
(2) 挨 拶
(3) 議 事

協議事項

- ① 令和5年度静岡市在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会について(資料1)
- ② 令和6年度静岡市在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会について(資料2)

(4) 閉 会

6 会議内容

- (1) 開会 開会宣言及び会議成立の報告
- (2) 挨拶
- (3) 議事

事務局

令和5年度静岡市在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会についての説明(資料1)

吉永部会長

意見または質問はあるか。

全委員

意見なし

事務局

令和6年度 静岡市在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会についての説明（資料2）

吉永部会長

来年度はエンディングノートの啓発やお知らせをしていきたい。ここのところACPに力を入れているし、エンディングノートもできてくるので、ノートの使い方を中心に企画していくのが良いのではないかと考えている。

対象者について、今回は専門職と市民に向けて一緒に行くが、これまでは別々の時期に行っていたので、来年度は専門職対象または市民対象について同時でも構わないし、これまでのように別に開催してもかよいと思うがいかがか。

これからエンディングノートを活用してってもらいたいので、専門職対象のものと市民対象のものと別々に行ってはどうか。

瀧委員

静岡市がこれからどんなことを推し進めていきたいのかというところを考えながらテーマを決めたら良いと思う。今回、平野委員が中心になって作成したエンディングノートを協議会で見たが、専門職もまだ使い慣れていないところでもある。専門職対象のものと市民対象のものは年2回やらないといけないのか。もし2回枠があるのであれば、専門職対象のものと市民対象のものをそれぞれやってもいいと思う。

近藤委員

私もエンディングノートについて開催するのであれば、専門職対象のものと市民対象のものとして分けた方がいいと思う。1年のうちに2回やるというのはどうか。まずは、専門職の人がエンディングノートを1年間使ってみて、市民はどう書けばいいのかについて実施するなど、エンディングノートを書くにあたって色々なことを考えなくてはいけないし、ケアマネジャーの立場でなくても、誰かと一緒に書くとなると、相当な時間が要ると思う。その意味ではエンディングノートは書く場所が多いし、ご本人の人生の色々なことを聞きながらになると、専門職が手伝うにしても結構時間が要するという気がするので、1年のうちに専門職対象と市民対象と両方というのは厳しいし大変だと思う。

坪井委員

私もエンディングノートの作成に携わり、いいものができたとは思っている。しかし、それを実際に市民に書いてもらうにあたっては、訪問看護師としてどのようなアドバイスをしたらいいか迷うと思う。まずは専門職を対象にアドバイスや、他の専門職から見て関わり方や書き方について意見をもらうなど、まず専門職が勉強をしてからの方がいいと思う。

平野委員

意見を聞きながら、私もほとんど賛同している。まずは自分が率先してエンディングノートを作り始めて、ここはこう直した方がよいといったことなどについて、来年度以降、アンケートの意見を聞くなどしながらブラッシュアップをかけていくときに、まずは専門職がどのように使っていくか見本を示していくことが最初だろうというのは同感。市民にそれを示していくのは、来年度かそれとも再来年度か。

今回、作成したエンディングノートを中心に専門職で勉強会や集まりを開催することがまず最初の選択だと思っている。もう1回、時間的な余裕があり、講師を呼んで開催する機会があればそれも良いかと思う。

吉永部会長

まず、我々が使い方を皆さんに紹介していく上でも、実際、3月にエンディングノートを渡されて、患者さんに説明しろと言われたときに確かに困る。内容をよく吟味して、どのような感じで使っていくか、どのように市民に伝えていくかということを研修する機会が必要ということで、よろしいと思う。先日開催された在宅医療・介護連携協議会にて、他の委員から啓発研修部会に期待されていることとして、エンディングノートについての市民への啓発があった。3月にエンディングノートが出来上がってくるので、運用するという段階で我々がまずそれを学ばなくてはいけないという部分は、来年度の早い段階でやらなくてはいけないかもしれない。その上で近藤委員が言うように、来年度の後半に市民対象に展開していくものを開催するか、難しい場合は、市民対象のものは再来年度以降ということにして、他に何かもう1回開催するといった考えでもいいのかもかもしれない。

現時点で皆さんの意見を集約して言えるのは、専門職向けの研修を最も深く実施するということがよいと思う。2番目の研修会のテーマだが、まさにエンディングノートということではないか。開催方法についても、時期的なもの、感染状況とかにもよるし、特に初回が専門職向けということになれば、これは多分ハイブリッドになるだろうという気はする。来場者は実際にエンディングノートを手にししながら色々検討するのが良いし、オンラインなら参加できる方も多いと思うのでハイブリッドが良いと思うが、皆さん、よろしいか。

全委員

賛成

吉永部会長

次に開催時期と講師について、3月にエンディングノートが出来ることを考えると、来年度のある程度早い段階でやった方がよいのではないかと思う。次の講師と内容についてということになるが、皆さん何か提案や意見があったら、お願いしたい。

平野委員

エンディングノートが出来上がるのは、4月か。

事務局

3月下旬に刷り上がって、渡すことができるのが4月になる。

平野委員

そうすると時期としては、5月か6月のスケジュール感はいかがか。

事務局

例年のスケジュールでは、まず本体である在宅医療・介護連携協議会を開会して、年度の予定を確認し、追って各部会を開催していく。第1回の在宅医療・介護連携協議会は例年5～6月に開催するので、早くても6月以降に各部会が開かれることになる。

吉永部会長

4月には、エンディングノートが配布されて初めて手に取って、どのように使うのかと感じる専門職は大勢いると思うので、その人たちに作り手の思いを伝えることがいいと思う。いつも平野委員には、申し訳ないがこのエンディングノートの作成についてリーダーシップをとってもらったので、平野委員をはじめとする制作に関わったチームで大事なところをやっていただくというのがいいのではないかと思う。

平野委員

エンディングノート作成部会では、各委員の意見や市民委員から忌憚のない意見について話し合い、出た意見について事務局が整理をして出来上がった経緯がある。私が話す内容に皆さんに色付けをしてもらう形で、開催できればと思う。

坪井委員

平野委員の言った通りで良いと思う。

近藤委員

エンディングノート作成部会では、最初は「エンディングノート」というタイトルは嫌だということからスタートしたが、市民が今わかるタイトルとなるとやはり「エンディングノート」ということでタイトルにしたが、副題は各委員の思いを込めて明るいものにしようということになった。とても大事なところだと思うので、そのようなことを皆さんにお話できれば良いかと思っている。

瀧委員

私は制作側ではなかったが、エンディングノートについて平野委員を中心にレクチャーしてもらう前に、行政から作成に至る思いや作成に関わった方々の思いを、ぜひ専門職に伝えてもらいたい。専門職に、静岡市のエンディングノートはこのような思いで作ったということを理解してもらえれば、患者や利用者に紹介するときも伝えやすくなるかと思う。

吉永部会長

他に、確認事項または、協議しておくことは、何かあるか。

平野委員

エンディングノートに関する研修を9月～10月ぐらいに開催し、年明けぐらいに何か違う企画を開催するのはいかがか。エンディングノートについてであれば私が話すということでもいいが、もう一つ、誰か講師を呼んで久しぶりに人を集めてはいかがか。

参集してディスカッションする対話形式でやると、参加者は楽しいけど疲れも残る。講義というか、ただ聞いてみたいという会があってもいい。

吉永部会長

ここで決めるわけではないので忌憚のない意見をもらいたい。

瀧委員

年間で2回専門職対象のものを中心に開催するとしたら、1回目は、今回、作った経緯も含めて導入編としてレクチャーを中心に行い、2回目は実践編として専門職が試してみるようなグループワークでもいいし、対面参加の方であればそれが可能かと思ったりした。ただハイブリッドで聞いている人はどうなのかと思う。

吉永部会長

対面であれば、ページをめくりながらディスカッションができるが、ハイブリッドのオンラインの参加者は難しい気がする。画面共有をしながらできなくもないが、ページをめくって話をするのは難しいかもしれない。だから実践編に関しては対面でやる方法もあると思う。

あと誰の話を聞いてみたいとか、何かそういったことでもあれば意見をもらえればと思う。

今年度の県の研修では、ACPノートを既に実践されている方の話を聞けるようだが、そのようなものも参考になるだろうし、静岡市の「エンディングノート」をいち早く使った人がいるといい。

平野委員

秋から年明け以降の開催であれば、実際に使ってみて役立ったケースがあれば、具体例とし

て紹介しながらどのように使っていくかという内容になり良いと思う。2 回目のところは、有名な講師が来れば参加者は多くなるかもしれないが、医療職や市民も含めてどういう期待度があるのか。エンディングノートに関しては、普及啓発して大いに使ってもらうきっかけになるスタートで良いと思うが、もう 1 回については実例・実践編で今年はやるか、それともまた違うことにするか。どちらがいいかは、まだ作られたものの、これから出来上がって手に取ってみて、考えてみたい。

事務局

情報提供だが、地域支援部会で研修についての意見として、大きな会場で有名な先生を呼ぶよりも、地域に根ざした皆が参加しやすい形の講座があるといいという意見もあった。

吉永部会長

誰か有名な人を呼んで聞くだけということではなく、参加型に近いようなあるいは、参加しなくても、身近な人や先生だったり、そういう方が実際使っているところを説明してくれたりする方がいいのかもしれない。我々の意見として後に託していけば、よいかと思う。

以下を協議し決定した。

令和 6 年度 静岡市在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会について

- 1 対象者
 - (1) 医療職及び介護従事者などの専門職
 - (2) 市民及び専門職
- 2 研修会のテーマ
 - (1) エンディングノートの運用方法
 - (2) 講座または講演会
- 3 開催方法
((1)、(2) 共に) 来場とオンラインのハイブリット
- 4 開催時期
未定(新年度、委員が確定し部会開催時に決定)
- 5 講師
 - (1) 令和 5 年度エンディングノート作成部会委員
 - (2) 講師を招聘

(閉会)

■会議録確認署名

「令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第2回啓発研修部会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 啓発研修部会 部会長

氏名 (署名)

吉永 浩 夫